

第 11 回東北女性腎臓医の会(TSWN)が令和 4 年 9 月 3 日(土)に ZOOM を用いたオンライン形式で開催されました。開会の辞は、代表世話人である東北大学大学院医学系研究科腎・膠原病・内分泌内科学分野准教授の宮崎真理子先生で、発足当時(平成 23 年)の会則を呈示されながら東北地方の医師不足、教育施設の偏在等から孤立しやすい女性腎臓医のネットワークを作るに至った経緯、会則を作成した日は紛れもない 3.11 東日本大震災の日で、作成約 1 時間後に大地震が発生したエピソードなど、東北の会員としては印象的なお話で会が始まりました。ショートレクチャーは仙台市立病院腎臓内科部長の山本多恵先生で「CKD 医療連携の話題」についてご講演を賜りました。仙台市では行政の主導による医師会の協力のもと、約 2 年間の準備期間を経て、令和 4 年 4 月より医療連携のシステムが始動しました。簡易な紹介状フォームの採用、仙台市立病院での紹介後の診療の流れ、紹介元に依頼するチェックシート形式のフォローアップ用紙など、仙台市 CKD 病診連携モデル事業の詳細についてご紹介をいただきました。また、腎臓内科医は他科より処方数が多く全人的医療を必要とされるという論文より、莫大な仕事量の中で CKD 診療の在り方について山本先生の所感が語られました。特別講演は貝塚病院腎・透析科部長の江里口理恵子先生で「CKD、透析患者の栄養と予後～女性医師の働き方にも触れて～」のご講演を賜りました。PLADO DIET (*Kalantar-Zadeh K. Nutrients . 2020*) より、植物性蛋白優位の蛋白制限食(0.6~0.8g/kg/day)が腎保護に重要であること、塩分制限は日本より厳しい 4g 未満、合併症によっては 3g 未満を推奨していることを紹介されました。江里口先生の研究結果によると透析導入後の 6 カ月間で PCR(Protein Catabolic Rate)の増加率が高いと死亡率が低くなることを示され、透析導入初期(6 カ月)に影響を与える網羅的な CKD 診療や CKD 教育の大切さについて考えさせられました。また、リンと生命予後の関係について、リンが高値であっても PCR が高値、いわゆる食事摂取量が十分である群は、リンが低値で PCR が低値である群より生命予後が良好であったという報告、また、リン単独ではなく蛋白 1g に対するリン(mg)の比が生命予後をより反映しているという報告を呈示され、栄養及び蛋白質を確保した上でのリン制限が必要であることを示されました。後半は若い女性腎臓医へ向けにご自身の年譜を元に医師のキャリアについてお話されました。病棟で寝泊まりして過ごされた研修医時代、ご結婚後は継続的にアメリカ腎臓学会(ASN)での発表と論文作成を通して学術活動のモチベーションを維持してきたこと、教育施設に該当しない場所でも ASN で発表可能な臨床データを有すること、ご主人の留学を機にご自身も Kalantar-Zadeh K 先生の門を叩き留学された開拓精神など女性医師の生き方は多様性があることをお示しいただきました。

オンライン開催のため、ご本人から承諾が得られた方のみ ZOOM 上でお名前とお顔を表示していただきスナップショットを撮りました。以下に掲載いたします。新幹線でご移動中の先生もおられオンライン形式の長所を感じつつ、対面での懇親会の場の初々しさやスイーツの誘惑が懐かしく感じられました。

文責：三愛病院腎臓内科 吉川香廉

